

# 一丁目通信

2017年11月[0099号]

## Arts-eihan

発行: 株式会社アーツエイハン

WEB: <http://eihan.com> Mail: [info@eihan.com](mailto:info@eihan.com)

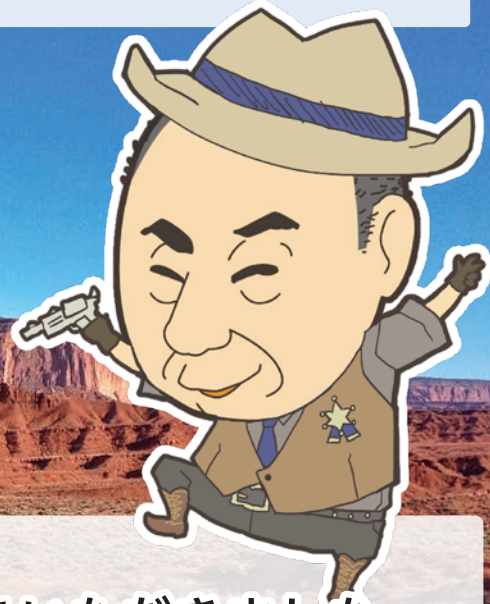
〒160-0022

東京都新宿区新宿1-18-13 協建新宿一丁目ビル

電話: 03-3355-1241 FAX: 03-5362-9325

今年も残すところ2ヶ月余り。  
ゴールまで猛ダッシュで必死に駆け抜きたい。  
余力を残す必要なく。

代表取締役 飯塚吉純



## CEATEC JAPAN 2017

## でアワードをいただきました



先日出展した CEATEC JAPAN 2017。今回の CEATEC JAPAN 2017 は東京ビジネスフロンティアの合同ブースでの出展でしたが、予想以上の方々に顔認識システム「Beesight」のデモンストレーションを行わせて頂く事ができました。また、無謀にもエントリーさせていただいた「米国メディアパネル・イノベーションアワード」では審査の上、ファイナリストとなる事ができ、「Industrial IoT」部門でアワードを頂きました。スタッフ同感激すると共に、ご支援いた

だいた方々に心から感謝致します。Beesight の開発から丸二年以上たちますが、様々な分野で活用していただきたく、様々にプレゼンテーションを行ってまいりたいと考えております。引き続き、宜しくお願い致します。



記事: 代表 飯塚 吉純

## 第7回 Web&デジタルマーケティング EXPO 秋

### に出展致します

11月8日から幕張メッセで開催される

「Web&デジタルマーケティング EXPO」にアーツエイハンとして出展致します。



幕張メッセ

11月8日(水)～10日(金)

10:00～18:00(最終日のみ17:00終了)

4ホール 小間番号 6-43

ご招待券を同封致しますので、是非ご来場くださいませ。

# ワンランク上の プラバン制作

記事：WEBチーム 山室 亜耶

ここ最近では大人もプラバンでアクセサリを作ったりします。アクセ制作歴の長い友人に教えてもらい、私も初挑戦してみました！子供の頃ならプラ板にマジックで直書きですが、今回はオシャレな質感を目指して色鉛筆を使っています。

あらかじめ、プラ板を紙ヤスリでやると、プラ板にも色鉛筆で絵を描くことができます！知らなかった！色鉛筆は油分多めのものをつかうと発色がいいそうです。

色は完成イメージより若干薄め、サイズは完成イメージの3~4倍の大きさを作ります。オープンで縮まって色が濃くなるので、プラに絵を書き終わったらオープンへ。30秒ぐらいで、プラ板が一気に縮まります。縮まり終わったら取り出して、本と本の間に挟んで、真っ直ぐにプレスすれば完成です。かなりかわいくできました！

プラ板は百均で手軽に購入できます。あとはハサミやマジックや色鉛筆など、家にある文房具で簡単にできるので機会がございましたらお試しください♪



## Wi-Fi の暗号化技術「WPA2」にセキュリティ上の脆弱性！

Wi-Fi で広く使われている WPA2 に「KRACKs」と呼ばれる脆弱性が発見されました。プロトコル自体の脆弱性のため、特定の製品に関係なく影響があります。

この脆弱性を突かれると本来暗号化されている内容を傍受し読み取ることが可能となります。この脆弱性で Wi-Fi の接続パスワードが漏れるわけではないため、パスワード変更では対応できないので今後メーカーから提供されてくるであろうパッチ適用を早々に行っていく必要があります！

無線ルータだけでなく、スマホや PC など広く影響がでます。お仕事などで Wi-Fi を利用されている方は特に早急な対応が必要とされます。

攻撃をする側も物理的に Wi-Fi を受信している環境にいないければ攻撃が出来ない脆弱性となるため、公衆無線 LAN などを利用する場合には特に注意が必要です。



記事：WEBチーム 鮎川 絢一

### おすすめの映画

## 第5回 「サスペンスドラマの金字塔!!-12人の怒れる男-

こんにちは。皆様いかがお過ごしでしょうか。

今回は、本当に面白いと言える映画を紹介していきたいと思います。今回紹介するのは、シドニー・ルメット監督によって制作された「12人の怒れる男」(劇場公開1957年)です。シドニー・ルメットは、アメリカの硬派な社会派映画を撮り続けた監督です。

この作品は、父親殺しの罪に問われた少年の裁判で、陪審員が評決に達するまで一室で議論する様子を描いています。サスペンス映画の中でも、密室劇の金字塔として高く評価されており、ほとんどの出来事がたった一つの部屋を中心に繰り広げられ、「物語は脚本が面白ければ場所など関係ない」という「映画は脚本ありき」と証明した内容になっています。脚本は、レジナルド・ローズ考案で、実体験を元に構想、執筆されたそうです。

最近の映画は、映像の美麗さに重点を置いていると思いますが、この作品は本当に一人一人の個性も良く、セリフも大変印象深く、開始10分程であっという間に、白熱した議論に引き込まれます。また、この作品の映像は全編モノクロなのですが、モノクロ映像が苦手な方であっても落ち着いて鑑賞出来ます。モノクロの映画を観たことがない方は、まずはこの「12人の怒れる男」からチャレンジしてみてください。どうでしょうか？きっと古臭い映像ならではの魅力にはまるはずですよ。

記事：映像チーム 平井慶太

